

大阪・関西万博閉幕 赤十字が31万人に伝えたメッセージ

今年度、日赤県支部では有功会員や赤十字奉仕団員向け

184日間に及ぶ大阪・関西万博が10月13日に閉幕しました。赤十字パビリオン（正式名称「国際赤十字・赤新月運動館」）は一時も閉館することなく、赤十字運動への理解・共感と、パビリオンコンセプトの「私の『できる』は、誰かのためになる」の一步を踏み出すきっかけを多くの人に提供することができました。総来館者数は31万人を超え、特設WEBサイト訪問者も150万人に上り、さらにはSNS上でも多くの方々に称賛、拡散いただき、この万博を通じて人道の輪が広まりました。

に、大阪・関西万博観覧を組み込んだ旅行を計画。延べ50名に参加いただきました。参加者からは、「ZONE2のシアターでは、厳しい現状が映されましたが、赤十字が支援に入っているのを見て感動した」とか、「普段何気なく過ごしていることなんて実はなにひとつなくて、すべてがありがたい



閉幕が近づくにつれ、赤十字パビリオンも大混雑



奉仕団とやま

発行

赤十字奉仕団
富山県支部委員会

富山市飯野26-1
日本赤十字社富山県支部内
電話 (076) 451-7878

年1回発行

赤十字パビリオン内は3つのZONEで構成されていて、ZONE1では『世界の何気ない日常を垣間見る映像インスタレーション』の空間が広がります。ドームシアターとなっているZONE2では、来館者を包みこむように広がるスクリーンと、臨場感のある映像と音によって、目の前の世界に入り込んだかのような没入体験が。そして最後のZONE3では、来館者が抱いた思いをメッセージウォールに投稿することができました。

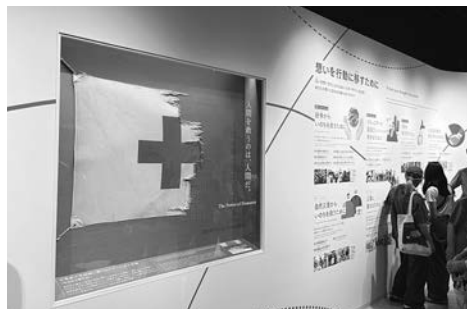
来るべき令和9年の創立150周年に想いを込め、日本赤十字社はこれからも『人間の命と健康・

ことだということに改めて気付かされた」といった感想が聞かれました。
また、この万博には全国から1,200人以上の職員・ボランティアが参加しており、富山県支部・施設からも3名が参加。最後まで大過なくオール日赤でパビリオンを運営することができました。この場をお借りして、ご支援いただいたすべての皆さま、そしてご来館された皆さまに感謝と御礼を申し上げます。

赤十字奉仕団結成状況

(令和7年3月31日現在)

全 国	地域赤十字奉仕団	2,048団	634,747人
	青年赤十字奉仕団	149団	5,108人
	特殊赤十字奉仕団	603団	26,853人
	計	2,800団	666,708人
富山県	地域赤十字奉仕団	44団	2,777人
	青年赤十字奉仕団	1団	6人
	特殊赤十字奉仕団	6団	134人
	計	51団	2,917人



東日本大震災の発災後1か月間、「すべての患者を受け入れる」決意のもと掲げられ、擦り切れた石巻赤十字病院の旗

尊厳を守る』活動が続けてまいります。
(県支部)

令和7年度 富山県赤十字奉仕団研修会

今年度の赤十字奉仕団研修会は「炊き出し」をテーマに、県内4カ所で開催しました。炊き出しをテーマにする研修会は3年毎に開催しています。

今年度は、毎年参加の地域・特殊奉仕団に加えて青年奉仕団からも参加してもらいました。富山県支部会場のみの参加ではありませんでしたが、いつもとは少し違うフレッシュな雰囲気が出ていました。

	開催日	場所	参加者
富山地区 特殊	5月25日(日)	日本赤十字社 富山県支部	15団 45人
高岡地区	6月11日(水)	高岡市里山交流 センター	11団 27人
新川地区	5月28日(水)	魚津もくもく ホール	11団 27人
砺波地区	6月5日(木)	チューリップ 四季彩館	10団 27人

参加者の感想

- ・大釜での炊き出しは久しぶりだったが、皆さんとわきあいあい取り組めて良かった。
- ・ハイゼックスを縛るときは、1回ゆるく縛ってからゆっくり空気を抜けばいいことが分かった。
- ・初めての参加だったが、実際にハイゼックスに触れ一連の作業を経験することにより、安心して慌てることなく実践できると感じた。
- ・自分たちでも炊飯器の組み立てをやってみたかった。



□ 研修会の内容

- ◆ ハイゼックスを使った炊き出し
(カレーライス用炊飯、おはぎ)
- ◆ 移動組立式炊飯器の設置方法
- ◆ おはぎ成形

「災害に備えての訓練見学」

射水市大島赤十字奉仕団

委員長 杉岡 美恵子

令和7年6月26日、支部・施設合同災害救護訓練が行われました。午前は県支部駐車場内で炊き出しを行い、出来上がった物を保温ケースに入れ運び、富山赤十字病院の教育研修棟へとバス移動しました。

現地には訓練に臨む医師や看護師姿の研修生が準備しておられ、奉仕団が持参したカレーを配食して皆で実食しました。

午後からは、呉羽山活断層を震源とする震度6強の地震が発生したとの想定で訓練が実施され応急処置を施し、負傷者の状態に合わ

炊き出しつながりで、例年6月に開催される『日本赤十字社富山県支部・施設合同災害救護訓練』では、毎年地域は変わりますが、奉仕団にも炊き出し訓練に参加してもらっています。その様子も併せて紹介します。



せて医療機関に搬送するための連携を確認するものでした。訓練を見学していた奉仕団員はリアルな声かけやすばやい行動等に食い入るように見ておられました。

今回の参加は、富山市内と射水市の計8団体の奉仕団員及び県委員長との協力のもと実施されました。



活動推進奉仕団報告

みんなで考え、みんなで 実践する活動を目指して

南砺市福野赤十字奉仕団

委員長 斉 藤 悦 子

我が奉仕団は、長井前委員長の下、安定した長期の体制に依存しており、退任の意向を受け、新体制が発足、活動を開始したのですが、改めて、若い団員を中心に、全員で奉仕団活動への啓発に努め、活動の見直し・検討することとしました。

まず、富山県支部の清水薫氏より「奉仕団活動とは？」のテーマで講演を頂き、「スキルアップ研修会」を実施。「赤十字奉仕団の6つの統一活動」を中心に、従来より行っている活動を含めて4グループに分け、検討課題としてグループワークをしました。団員は、日頃の活動の中で色々な疑問も抱えており、活発な意見交換が行われ、良い交流の機会ともなりました。

話し合った内容については、次年度へも引き続いて検討していきたいと考えております。

特に、新規団員の募集については、今後の活動推進の基本となることから、まず私たちの活動を地域に知ってもらうために、

①夏休みキッズホームの防災訓練で防災セミナー「おうちのきけん」を実施。子供たち・



家族に赤十字活動を知ってもらう：継続的に他地区にも出向き実施したい。

②食生活改善推進員&赤十字奉仕団共同研修会「共に学ぼう防災のこと」。他ボランティア団体とのコラボ企画の中から赤十字の活動を広める。また、思いを共有する仲間を募る機会とする。

③ひみのはなで、防災士さんの「能登半島地震で起きたことと今後の備え」そして十二町赤十字奉仕団の森越委員長の「能登半島地震の体験を通して見えた赤十字奉仕団の課題と想い」の講演。お話しいただいた後、共に食卓を囲んで親交を深めました。他奉仕団との交流の中から活動の進め方や機会を学びました。

等々、話し合いの中から新たな活動を進めてきました。みんなで話し合い、考えて、少しずつ改善し、楽しんで活動を推進したいものと考えます。

点字体験教室

―点字を知って名刺を作ろう―

富山赤十字点訳奉仕団

副委員長 植 野 直 美

現在は国語教科書が改訂され、点字の紹介はなく点字にふれあう機会が少ないように感じていた中、7月26日富山市大久保ふれあいセンターにて、点字体験教室を行う機会をいただきました。当日8名の参加になり、案内ポスターも1枚作成し点字をアピールしました。

初めに、視覚障がい者が利用する点字本の紹介、家庭内にも多くの点字サインがあり、点字は触って読む大切な文字であることを伝えました。みんなが住む町でも触地

図や点字ブロックなどは視覚障がい者の方が安心してスムーズに移動するための助けになるなどを真剣に耳を傾け「夏休みの宿題にする」とノ

ートに書き込む中学生の姿や頼もしい発言もありました。時間が進むにつれ点字を書くのに慣れてきた頃、夏をテーマにしりとり点字で親しんでもらいました。いよいよ名刺作りです。各自が好きなように点字を書き、最後の仕上げにキラキラシールを貼る人、「点字だけの方が暗号みたいでカッコイイ」という大人、イラストを描く人など思い思いの名刺づくりを終えることができました。

今回の体験教室を通して、視覚の障がいがあるなしに関わらず、誰もが暮らしやすいってどんなことなのかと考えるきっかけになってくれることを願っています。多くの方に点字を広めるにはどのような工夫をしたらよいのか、継続していくにはどう導いていけばよいのかなど、私たちにとって学びの場でもありました。1冊の活字本を点字本にするには多くの時間確保と根気が必要ですが奉仕団員、家族の協力があるて、点訳活動を継続していくことができています。日々、日本語の難しさや点字の奥深さを実感しながらもそれが楽しみでもあります。これから、視覚障がい者の支えとなり読みやすい点訳を提供できるよう、奉仕団として実りある活動をしていきたいと思っています。



福祉への想い

まごころの寄附

福岡町赤十字奉仕団

委員長 石田 真由美

令和7年8月、当赤十字奉仕団の宮崎眞紀子さん（72歳）が日本赤十字社富山県支部に、200万円の寄附をしてくださいました。当日は県支部から2名来訪され、福岡町赤十字奉仕団の数名の立ち会いのもと、直接お渡しされました。

宮崎さんは長年、福岡地区民生委員・児童委員として活動され、高岡市民生委員・児童委員協議会の副会長、さらに県の役員をも歴任されています。若い頃から社会



福祉に関心をもたれ、様々な活動に積極的に取り組まれてきました。そして、4年前からは当赤十字奉仕団にも加入していただき、現在に至るまで、団員としても活躍されています。

今回の寄附について、想いを伺うと、

「なあん、そんな。」

と、笑顔で受け流されるのですが、

「皆さんが一生懸命に活動しておられるので、少しでも役立ててほしいと思って。」

とだけ話されました。宮崎さんの想いを大切に受け止め、今後も奉仕団の活動に精一杯努めていかなければと思います。

令和8年度の研修旅行ご案内

詳細な日程・募集は、各団委員長に改めてお知らせします。

◆実施予定 10月（日帰り）

◆募集人数 40名程度

◆行き先 能登地方

◆内容 （貸切バス利用）

輪島朝市、千枚田など

能登半島地震後の

奉仕団活動

十二町赤十字奉仕団

委員長 森 越 美智子

令和6年1月1日に起きた能登半島地震を振り返り『今後起きるかも知れない大災害に備えて、今地域で出来る事を考えよう』と、十二町地区社会福祉協議会は、被災された方々の暮しを支える福祉活動を応援する助成金を市社協へ申請し、十二町地区全住民を対象とした赤十字防災教室を行うこととしました。

避難訓練や自分で作る防災食、レクリエーションを通して不安感を和らげる取組み、ハザードマップの理解を深めて災害弱者を守る福祉防災マップ作りの指導、防災備蓄用品の使用方法的説明等々を日赤県支部で学んだ事を元に7会場で実施しました。

令和6年1月1日の大地震発災時は、幸にも穏やかな天候であったことやいくつもの好運に恵まれて比較的軽い被害で済んだのですが、次に起こるかも知れない大災



害に備えて今回のことを省み、災害を風化させないことが大事だと思います。

そして、日赤県支部の御指導を仰ぎ、富山県赤十字奉仕団の連携も更に深めていかねば…と深く感じた活動になりました。



《我が団の紹介》

奉仕団活動を通して得たこと

入善町赤十字奉仕団

委員長 小林 あゆみ

入善町赤十字奉仕団は団員の協力を得ながら町や町社会福祉協議会との連携を図り、今できる無理のない範囲で活動しています。

介護施設の除草作業や町社会福祉協議会主催で開催されるハートフルフェスティバルに参加し、障がい者への理解を深めるとともに、来場者への広報活動を行い赤十字への理解をもらえるよう努めています。

研修会は地元の方を講師に迎えて、防災士による防災学習ではダンボールベッドの組み立て、毛布と物干し竿でできる担架などを作り、ランタン制作をして3世代交流を図りました。

戦後80年を迎え命について考える機会を持てればと、イタイイタイ病研究会の金澤敏子さんに「小松みよさんの生涯」として



ご講演をして頂きました。公害病ですが戦争と深いかわりがあり、金澤さんが「みよさん」になり話される姿、お声から涙なくしては聞けませんでした。

印象的だったのが人は人でしか助けられないという言葉、人道支援、命の尊厳に通ずるものがあると感じました。

我が奉仕団は今年50周年を迎えますが、私たちなりに力を合わせて活動していきたいと思っています。

新湊中央赤十字奉仕団30周年

新湊中央赤十字奉仕団

委員長 米島 敏子

平成9年に吉田とし子委員長の日本赤十字社への熱い思いで結成され、今年30周年を迎えます。

その後、任を受けて5年です。あまりの重責に戸惑い押し潰されそうになりました。ら、役員の皆様に支えられての今日です。団員85名、旧新湊市と高岡市が交差している地域のため、市政を超えて協力しあっています。

施設でのシート交換、海岸や内川の清掃、海王丸パーク・内川での日赤広報ティッシュペーパー配布、NHK海外たすけあい街頭募金、研修旅行等、奉仕活動であり団員の交流の場にもなっています。

コミュニティセンターでの炊き出し訓練ではグループ分けになり、ハイゼックスを



使って梅干し入り白米、もち米できな粉、小豆、おはぎ、豚汁、牛乳パックを使って、いろいろ、プリンなどを作りました。また、非常食や非常袋などいろいろ話しながらの楽しい試食会になりました。午後からは富山県支部より講師を招いての救命救急講座を受けました。

音楽イベントにおいては、400名あまりの方々より「頑張ろう北陸」として多くの募金を頂きました。

高齢者一人暮らし訪問では、ティッシュペーパーを受け取った方々よりとても喜ばれ「心温まりました」…との多くの団員の声に奉仕の原点を感じます。

新湊の地に奉仕の輪が広がり40年へと繋ぐ願いをこめて、これからも団員一同、心をひとつにして更なる活動に邁進していきたいと思っています。

表彰を受けられた方々おめでとうございます。今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

業務功勞

● ボランティア活動推進富山県民会議会長
表彰

【個人】

清水 晴乃(宇奈月赤十字奉仕団) (黒部市)

森越美智子(十二町赤十字奉仕団) (氷見市)

● ボランティア活動推進富山県民会議奨励賞

【団体】

富山県青年赤十字奉仕団

● 金色有功章(継続20年)

【奉仕団委員長】

竹苗 典子(下村赤十字奉仕団) (射水市)

● 銀色有功章(継続15年)

【奉仕団委員長】

小林 福治(富山県青少年赤十字賛助奉仕団)

清水 晴乃(宇奈月赤十字奉仕団) (黒部市)

● 金梓感謝状(継続10年)

【奉仕団委員長】

深川 紀子(上市町赤十字奉仕団)

● 銀梓感謝状(継続5年)

【奉仕団委員長】

岡本由美子(富山赤十字病院奉仕団)

社資功勞

● 日本赤十字社社長感謝状

樋口ちづ子(白菊赤十字奉仕団) (富山市)

山下 和夫(伏木赤十字奉仕団) (高岡市)

● 金色有功章

山下 博司(伏木赤十字奉仕団) (高岡市)

● 銀色有功章

井黒 町子(滑川市赤十字奉仕団)

杉森 和子(八尾町赤十字奉仕団) (富山市)

※社資功勞につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。

(R7. 2. 1～R8. 1. 31)

(敬称略) (五十音順)

令和8年度に

周年記念を迎える奉仕団

50周年

入善町赤十字奉仕団

(昭和51年3月27日設立)

朝日町赤十字奉仕団

(昭和51年4月18日設立)

伏木赤十字奉仕団

(昭和51年9月28日設立)

30周年

新湊中央赤十字奉仕団

(平成9年2月19日設立)

ボランティア保険

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。

これらはすべて、日本国内における奉仕団活動中(所属団及び県支部が認めるもので、会議や研修会も含む)の事故に限られます。不慮の事故の際は、各団委員長を通じて、市町村の日赤担当者や県支部に報告して下さい。(生じた事由によっては、保険金をお支払いできない場合があります。)

■他者への賠償金…支払限度額 5億円

◆保険金が支払われる主な場合

(1) 次のいずれかに該当する事由による他人の身体の障害または財物の損壊
・ ボランティア活動中に発生した偶然な事由
・ ボランティア活動中に伴って提供した財物に起因する偶然な事由

(2) ボランティア活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または窃取(ただし、受託物について正当な権利を有する物に対して負担する損害賠償責任に限ります。)

■自身の傷害

：死亡・後遺障害 12、540千円

：入院保険金日額 6、300円

：通院保険金日額 4、200円

◆保険金が支払われる主な場合

(1) 死亡保険金

事故によるケガのため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡された場合

(2) 後遺障害保険金

事故によるケガのため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に約款所定の後遺障害が発生した場合

(3) 入院保険金

事故によるケガの治療のため、事故の発生のその日から180日以内に入院された場合

(4) 通院保険金

事故によるケガの治療のため、事故の発生のその日から180日以内に通院(往診を含む)された場合

令和 7 年度 富山県支部扱い義援金・救援金

※金額及び件数は 1 月 31 日現在

国内	令和 6 年能登半島地震災害義援金(被災県全体)	178件	22,915,414円
	令和 6 年能登半島地震災害義援金(富山県)	257件	104,601,177円
	令和 6 年 7 月 25 日からの大雨災害義援金	3件	18,504円
	令和 6 年 9 月能登半島大雨災害義援金	47件	787,647円
	令和 6 年沖縄県北部豪雨災害義援金	1件	271円
	令和 7 年大船渡市赤崎町林野火災義援金	31件	2,520,265円
	令和 7 年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	11件	107,827円
	令和 7 年台風第 8 号に伴う災害義援金	8件	61,750円
	令和 7 年 8 月 6 日からの大雨災害義援金	8件	88,515円
	令和 7 年台風第 12 号災害義援金	5件	37,832円
	令和 7 年台風第 15 号災害静岡県義援金	9件	48,185円
	令和 7 年台風第 22 号及び 23 号災害義援金	2件	25,966円
	令和 7 年 11 月 18 日大分市佐賀関の大規模火災義援金	3件	93,761円
	令和 7 年青森県東方沖地震義援金	1件	14,903円
海外	中東人道危機救援金	3件	7,805円
	バングラデシュ南部避難民救援金	1件	3,535円
	アフガニスタン人道危機救援金	1件	4,112円
	ウクライナ人道危機救援金	4件	26,265円
	レバノン人道危機救援金	2件	2,682円
	2025 年ミャンマー地震救援金	10件	126,905円
	2025 年アフガニスタン地震救援金	4件	15,393円
	2025 年パキスタン洪水救援金	2件	4,879円
	無指定救援金	1件	10,000円
	令和 7 年度 NHK 海外たすけあい救援金	810件	11,430,304円
	(郵便振替を利用され、日赤本社に直接送金された分を含む)		

合計 1,402件 142,953,897円



赤十字救急法が100年を迎えます

今の日本では、119番通報すれば救急車が来て、病院に行けば治療が受けられます。しかし、事故や災害などが発生してから救急車が来るまでの間、何もしなければ、刻一刻と命を引き戻すチャンスは失われます。そんなとき、そばにいる人が手を差し伸べ、正しく救助することが、救命やその後の回復に大きく影響することは、昔も今も変わりません。

赤十字救急法は、**人道**に基づき、差別なく**中立・公平**の原則に従って命を救おうとするボランティアの貢献（**奉仕**）によって**世界**の隅々に広がっています。

2026年は、救急法を含む「衛生講習会」事業を開始してから100年の節目。

日本赤十字社では、赤十字講習100周年を記念したイベントを企画しています。また、奉仕団の皆さんにも今一度、赤十字救急法を体験いただく機会を設ける予定です。

「とっさのとき、誰もが救い、救われる」ために。

すべての人に、救急法の知識と技術を身につけてほしい。それが赤十字の願いです。

日本赤十字社富山県支部
ホームページはこちら



編集委員
金田 桜子 小林あゆみ
大宅 京子 任海 哲朗
杉岡美恵子 市川千賀子
北田 祥子 平野 桂子

大阪・関西万博が事前の予想を超える入場者数や高い評価のもと終了しました。赤十字パビリオンには31万人が訪れ富山県からも50名の有功会員や奉仕団員が参加し、赤十字活動の理念そして未来について改めて確認し共感を覚えてまいりました。詳細内容は冒頭に紹介させて頂きました。令和8年度は能登の復興に少しでもお役に立てる研修旅行が企画されております。また防災に関してはJRCとの協働事例や防災教育指導者研修会の体験事例を今回掲載致しました。防災意識のさらなる向上に努めましょう。令和7年度の「奉仕団とやま」発行にあたりご寄稿、ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。
(四方 任海記)



ペンが書い